

首里城復興基本方針に関連する取組 (従来の取組)



首里城復興基本方針に関連する取組（従来の取組）

	基本方針	関連する取組	課題
<p>I 正殿等の早期復元と復元過程の公開</p> <p>首里城正殿等の復元については、国が国営公園事業として取り組んでおり、沖縄県は、国の技術検討委員会に参画し、国との連携を図っているところである。</p> <p>県民に親しまれ、多くの来訪者を魅了してきた首里城正殿等の早期復元及び復元過程の公開に向け、国をはじめ関係機関と連携し、下記の取組を進める。</p>	<p>(1) 伝統技術を活用した施設整備</p> <p>前回復元時から瓦葺や漆の塗り替えなど、首里城内の施設修復に県内職人の技術が生かされており、国の技術検討委員会において前回復元時から沖縄県内に蓄積、承継されている伝統技術の活用を図るべきであるとの報告がなされている。</p> <p>そのため、国や関係機関と連携のうえ、<u>県内に蓄積、継承されている伝統技術を首里城正殿等の復元に資するための取組を進めるとともに、人材の確保、育成に取り組む。</u></p>	<p>【商工労働部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 木漆工分野における若手工芸技術者に対し、基礎的及び専門的な技術研修を行い、高度な技術を持った人材を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 従事者の高齢化等で、従事者の離職がある。 後継者育成修了後の収入が安定しない。
	<p>(2) 木材、瓦等の調達に向けた取組</p> <p>首里城正殿等の復元にあたっては、国の技術検討委員会において、木材、漆、赤瓦を中心にその調達方法等について議論されており、「沖縄在来樹種であるチャーギ（イヌマキ）等は調達可能な場合には可能な限り使用することが望ましい」、また「沖縄独特の赤瓦を関係機関と連携し、沖縄本島産の材料を調達すべき」、との報告がなされている。</p> <p>そのため、国や関係機関と連携し、<u>県産材等の調達が</u>できるよう取り組むとともに、<u>赤瓦については、県内の研究機関において、調査研究(原料調査、配合、焼成など)や、仕様・品質管理の確立など、首里城正殿等の早期復元に資するよう</u>取り組む。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; display: inline-block;"> <p>火災を受けての項目のため、対象外</p> </div>	
	<p>(3) 復元過程の公開による観光資源等としての活用</p> <p>首里城は、県民のアイデンティティーの拠り所であるとともに、観光客を含む多くの人々が訪れる重要な施設である。</p> <p>そのため、国や関係機関と連携し、<u>首里城正殿の遺構の公開や展示、復興イベントなどの取組を戦略的に</u>行う。また、仮設見学通路の設置などを行い、<u>復元過程の公開を行うこと</u>で、文化、教育、観光資源として活用し、県民をはじめ国内外の多くの人々が訪れるよう取り組む。</p>		

首里城復興基本方針に関連する取組（従来の取組）

	基本方針	関連する取組	課 題
<p>2 火災の原因究明及び防火設備・施設管理体制の強化</p> <p>二度とこのような火災による焼失を生じさせないよう、今後想定される様々な出火要因に対応しなければならない。</p> <p>国は「首里城復元に向けた技術検討委員会」において首里城正殿等における防火設備の強化等を、沖縄県は「首里城火災に係る再発防止検討委員会」において、首里城正殿等の防火対策に関連する県営公園区域の防火体制や安全性の高い施設管理体制について検討しており、再発防止に向け、国と県で連携し、下記の取組を進める。</p>	<p>(1) 再発防止に向けた防火設備等の強化</p> <p>今般の火災では、火災の早期発見と初期消火を徹底することの重要性が確認されたことや、首里城が城郭に囲まれた特殊な地形に存在していること等を踏まえた再発防止策を講じることが必要である。</p> <p>そのため、国は、首里城正殿に、火災の早期発見及び迅速な初期消火のための最先端の自動火災報知設備及びスプリンクラー設備、消防隊の迅速な消火活動を可能にするため、城郭内に消火用の水を送るための連結送水管設備を導入すること、さらに消火のための水源確保のため貯水槽を増設するとともに、関係機関と連携して消火栓の新設を検討している。</p> <p>また、県は国と連携して、首里城正殿等の防火対策に関連する県営公園区域の防火対策について検討する。</p>	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">火災を受けての項目のため、対象外</p>	
	<p>(2) 安全性の高い施設管理体制の構築</p> <p>今般の火災では、首里城正殿及びその他施設が全焼等に至ってしまったことから、事実確認、原因究明、再発防止の段階を踏みながら、防火対策及び管理体制のあり方を検討し、安全性の高い施設管理体制を構築することが必要である。</p> <p>そのため、県が設置した「首里城火災に係る再発防止検討委員会」において、首里城火災に関する警察や消防の調査結果等を踏まえ、管理状況等の事実関係を確認・整理し、正殿等が全焼等に至った要因等の分析等の原因究明を行う。また、事実確認及び原因究明後、先進事例や新技術の調査等を踏まえて、適正な管理体制のあり方を検討する。</p> <p>県は、同委員会の議論を踏まえて、令和2年度末を目標に、適正な管理体制のあり方を示した「首里城火災に係る再発防止策」を策定し、同防止策の策定後、国と連携して、管理計画等の具体的な検討を行い、首里城公園における安全性の高い施設管理体制の構築に取り組む。</p>	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">火災を受けての項目のため、対象外</p>	

首里城復興基本方針に関連する取組（従来の取組）

基本方針	関連する取組	課 題
<p>3 首里城公園のさらなる魅力の向上</p> <p>首里城公園は、歴史、文化の拠点として魅力ある施設整備を行ってきた。今後も引き続き、多くの人々が首里城や琉球王国の歴史を知り、そこから発する現在の琉球文化を感じる場となるよう、沖縄県は管理者として、設置者である国と連携し、下記の取組を進める。</p>	<p>(1) 国営・県営区域の一体的利用</p> <p>首里城公園の展示、収蔵、解説、体験、行催事、飲食、休憩といった公園施設の用途について、国との連携のもと検討する。検討にあたっては、国営・県営区域を一体ととらえ、首里城の歴史や魅力を「物語」として体感できるよう、さらには利用者の快適な滞在・回遊性の確保に留意する。</p> <p>特に、貴重な美術工芸品等の展示・収蔵については、最新技術を活用した適切な展示・収蔵に加え、修復作業を視野に入れて施設のあり方を検討するとともに、今般の被災状況に係る展示・解説等を加えるものとする。</p>	<p>【土木建築部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄らしい文化的な歴史資産、風土および自然と共生する憩いの場を創出するため、県営首里城公園（都市公園）の整備を行う。 ・ 整備にあたっては、各課題の確認（洗い出し含む）および解決に向けた取り組みが必要である。
<p>(2) 多様で柔軟な施設の利活用</p> <p>県は国と連携して、首里城の歴史や神聖な空間に配慮しつつ、多様で変化に富んだ施設利活用を検討する。具体的には、首里城が将来にわたって琉球の歴史・文化の象徴及び発信の場となるよう、鑑賞、見学、体験、交流等の学習や観光利用とともに、文化創造等、魅力ある場の形成をめざす。</p>	<p>【土木建築部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「沖縄県国営沖縄記念公園内施設（首里城地区内施設）に係る行催事等実施基準検討委員会」を令和元年8月16日に設置し、より魅力ある施設利用運営について検討する。 ・ 行催事実施の中心としていた北殿、御庭、正殿等が使用できない状況であるため、御内原エリアや無料区域を活用した行催事等を行うことにより、魅力向上に繋げる必要がある。 	<p>・ 行催事実施の中心としていた北殿、御庭、正殿等が使用できない状況であるため、御内原エリアや無料区域を活用した行催事等を行うことにより、魅力向上に繋げる必要がある。</p>

首里城復興基本方針に関連する取組（従来の取組）

基本方針	関連する取組	課題
<p>4 文化財等の保全、復元、収集</p> <p>今般の火災では正殿において展示・研究のために露出していた部分の遺構2か所が被災し、また収蔵品の多くも被災した。焼失又は被災した貴重な文化財等の復元や修復及び国内外へ散逸した文化財等の収集を行い、<u>次世代へ継承</u>するため、下記の取組を進める。</p>	<p>(1) 首里城跡の適正な保全と価値の周知</p> <p>政府が発表した「首里城復元に向けた基本的な方針」においては、首里城跡の世界遺産登録に悪影響が及ばないよう、引き続きユネスコと緊密に連携しながら進めることが明記された。</p> <p>県としても国と連携して<u>遺構の劣化状況を的確に把握し、その価値が悠久に評価されるよう適切な保護を行い公開に取り組む。</u>また、首里城跡や周辺文化財の発掘調査に関する成果の現地説明会を実施し、出土品の展示を行うなど、<u>埋蔵文化財に関する情報発信にも積極的に取り組む。</u></p>	<p>【教育庁】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄の先人達が築き、残した貴重な文化遺産を国又は県の文化遺産として適切に保護し、公開・活用等を図り、県民の文化力の向上に資するために、史跡等の整備を実施する。 ・ 埋蔵文化財包蔵地の所在把握と周知徹底に努めるとともに、開発者及び広く県民に埋蔵文化財保護の趣旨を十分に説明し理解と協力を求め、その保護に努める。
	<p>(2) 文化財等の復元、修復及び収集</p> <p>今般の火災では美ら島財団が所有していた収蔵品393点が焼失したものと思われ、焼失を免れた漆器類等も、熱や消火活動による水の影響で薄紙の付着、塗膜の劣化が見られ、一部熱で木型が変形している物もあり、修復にかかる費用や時間の目処は立っていない。</p> <p>今回被災した文化財等は琉球の歴史、文化を知る上で重要な役割を果たしており、<u>所有者との役割分担を明確にした上で、修復及び正殿等建物の復元にあわせた展示品等の復元についても積極的に支援する。</u></p> <p>また、<u>先の戦災等で散逸した琉球王国関係資料に関する研究を行うとともに、国内外に所在する王国時代の資料収集に引き続き取り組む。</u></p>	<p>【文化観光スポーツ部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 米国の博物館・美術館等において本県の文化財の収集等を推進する。 <p>【那覇市（市民文化部）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 復元する際の参考として収蔵資料の熟覧等への協力、学芸員の専門的見地からの助言・協力

首里城復興基本方針に関連する取組（従来の取組）

	基本方針	関連する取組	課題
<p>5 伝統技術の活用と継承</p> <p>首里城の城郭や木造建築群を支える建築技術、また染織、漆器、陶器などの美術工芸品に生かされている伝統技術は、琉球王国時代から脈々と受け継がれ、沖縄らしさの源流となっている。</p> <p>そのため県内の関係機関と連携し、<u>伝統技術を活用、継承</u>するため、下記の取組を進める。</p>	<p>(1) 伝統的な建築技術の活用と継承</p> <p>首里城正殿等には、独特の赤瓦や漆塗りなど伝統的な建築技術が施されており、そのような建築技術は、前回復元時から施設修繕等で県内職人を活用することなどにより、蓄積、継承されている。</p> <p>今回の復元がなされた後においても、<u>首里城正殿等の維持保全や県内建築物に活用できるよう、伝統的な建築技術を蓄積、継承するとともに、技術者の確保、育成に取り組んでいく。</u></p>	<p>【商工労働部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 木漆工分野における若手工芸技術者に対し、基礎的及び専門的な技術研修を行い、高度な技術を持った人材を育成する。（再掲） 	<ul style="list-style-type: none"> 従事者の高齢化等で、従事者の離職がある。 後継者育成修了後の収入が安定しない。
	<p>(2) 美術工芸における伝統技術の継承</p> <p><u>琉球王国時代から相伝する8つの手わざ（絵画、木彫、石彫、染織、漆芸、陶芸、金工、三線）について、模造復元から得られた調査研究の成果や復元過程の記録の公開など、広く情報発信に取り組み、「技」を継承するために技術者の育成、材料や道具類の確保に取り組む。</u></p> <p>また、<u>美術工芸品等の修繕に関わる技術者の育成・継承について取り組み、沖縄伝統工芸品の修復拠点となるべく県立芸術大学を中心に首里城の伝統技術に関する教育の推進についても検討を行うと同時に、県内大学等との連携を図る。</u></p> <p><u>各技術の伝承者養成に向けては関連する保存会等の支援を引き続き行う。</u></p>	<p>【商工労働部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 伝統的工芸品産地組合等が従事者の確保及び育成を図ることを目的に各産地が若手工芸技術者に基礎的及び専門的な技術研修を行い、高度な技術を持った人材を育成する後継者育成事業に対して補助を行う。 染織物・木漆工分野における若手工芸技術者に対し、基礎的及び専門的な技術研修を行い、高度な技術を持った人材を育成する。（再掲） 工芸産業の従事者の地位向上と後継者の育成・確保に寄与することを目的に、優れた技術・技法を保持する工芸産業従事者を「沖縄県工芸士」として認定する。 染織工芸品に使用される原材料の供給体制を強化するために、供給事業者の育成・確保及び技術力向上により、良質な原材料の安定供給を図る。 工芸技術に関する試験研究の業務を遂行し、工芸業界にその成果を技術移転することで生産技術の向上及び工芸製品の品質の維持改善等を図り、工芸産業の振興と発展の寄与する。 <p>【文化観光スポーツ部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 戦災等により失われた8分野の工芸品製作のティーワジャ（手わざ）など王国時代の精緻で至高の技の世界を現代に蘇らせ、世界に誇る沖縄の手わざの力をモノを通して国内外へ発信する。 <p>【教育庁】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保存会等が後継者を育成するために若手実演家・技術者を対象に実技研修等を行うものであり、県は必要に応じ予算の範囲内で経費の一部を補助することにより支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 従事者の高齢化等で、従事者の離職がある。 後継者育成修了後の収入が安定しない。 従事者の高齢化等で、従事者の離職がある。 後継者育成修了後の収入が安定しない。 工芸士の認知度向上を図るため、事業周知を十分に行う必要がある。 人材育成については、自己判断で作業が行えるまでには継続した指導が必要である。 植物の育成状況に関わる実証実験を含むため、成果を出すまでに期間を要する。 扁額及び外壁の塗装に供する伝統素材である瓦地粉の量産に向けた技術研究が必要となる。 復元製作のための実施体制の整備（対象資料の原材料、構造、法量等の情報収集体制、製作工程の運営管理を行う人材の確保、職人や各関係機関との横断的連携体制など） 復元製作の企画立案のための十分な調査研究時間の確保 保存会の高齢化に伴い組織体制の見直しが必要な状況も見られることから、引き続き保存会等関係団体の支援が必要である。

首里城復興基本方針に関連する取組（従来の取組）

基本方針	関連する取組	課 題
<p>5 伝統技術の活用と継承</p> <p>首里城の城郭や木造建築群を支える建築技術、また染織、漆器、陶器などの美術工芸品に生かされている伝統技術は、琉球王国時代から脈々と受け継がれ、沖縄らしさの源流となっている。</p> <p>そのため県内の関係機関と連携し、<u>伝統技術を活用、継承するため、下記の取組を進める。</u></p>	<p>(2) 美術工芸における伝統技術の継承</p> <p><u>琉球王国時代から相伝する8つの手わざ（絵画、木彫、石彫、染織、漆芸、陶芸、金工、三線）について、模造復元から得られた調査研究の成果や復元過程の記録の公開など、広く情報発信に取り組み、「技」を継承するために技術者の育成、材料や道具類の確保に取り組む。</u></p> <p>また、<u>美術工芸品等の修繕に関わる技術者の育成・継承について取り組み、沖縄伝統工芸品の修復拠点となるべく県立芸術大学を中心に首里城の伝統技術に関する教育の推進についても検討を行うと同時に、県内大学等との連携を図る。</u></p> <p><u>各技術の伝承者養成に向けては関連する保存会等の支援を引き続き行う。</u></p>	<p>【那覇市（経済観光部）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 伝統的工芸品産業振興の振興に関する法律に基づき、各産地組合が国から認定された振興計画により実施する後継者育成事業に対し、国、県、市で協調して補助金を交付し、各産地組合の後継者育成の取組を支援する。 本市の伝統工芸産業の振興及び発展と市民文化の向上を目的に、伝統工芸品の展示及び販売、実演及び体験、後継者育成等を行う施設「那覇市伝統工芸館」を運営している。

首里城復興基本方針に関連する取組（従来の取組）

基本方針	関連する取組	課題
<p>6 「新・首里杜構想」による歴史まちづくりの推進</p> <p>首里城を中核とする一帯（首里杜地区）は、世界遺産である首里城跡を保護する緩衝地帯（バッファゾーン）となっている。</p> <p>今回の首里城復興にあたり、古都首里のまちづくりの方向性を示した「首里杜構想」を社会環境の変化や時代のニーズを踏まえて見直すことにより、<u>首里杜地区が琉球文化を体現できる場となるよう、地域住民や関係機関と連携し、下記の取組を進める。</u></p>	<p>（1）歴史を体現できる風格ある都市空間の創出</p> <p>世界遺産である首里城跡、園比屋武御嶽石門（そのひゃんうたきいしもん）、玉陵（たまうどうん）を含む地域の魅力を高めるために、<u>首里城公園を含めた首里地域における歴史を体現できる風格ある都市空間（歴史的風致）の維持・向上をめざす。</u>王都としての歴史的な名残や、赤瓦葺きの建物、石垣や道なども再生されつつあり、これら<u>古都・首里ならではの固有性を守り育てながら、千年悠久の歴史まちづくりをめざした景観の形成に取り組む。</u></p> <p>【土木建築部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自然、歴史、伝統文化に育まれた地域景観資源を保全・再生し、個性豊かで魅力あふれる沖縄らしい風景づくりを推進するため、市町村における景観地区の指定等に向けた支援を行う。 良好な景観創出のための仕組みづくりを目的として、風景・まちなみの再生を先導する地域に根ざした風景づくりサポーター及び地域景観リーダー等を育成する。 緊急輸送路や避難路確保の防災対策、安全で快適な通行空間の確保、都市景観の向上、観光振興を目的とし、電線類を地中化するため電線共同溝を整備する。 <p>【教育庁】</p> <ul style="list-style-type: none"> 沖縄の先人達が築き、残した貴重な文化遺産を国又は県の文化遺産として適切に保護し、公開・活用等を図り、県民の文化力の向上に資するために、史跡等の整備を実施する。（再掲） <p>【那覇市（都市みらい部）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 都市景観形成地域に指定している首里金城地区及び龍潭通り沿線地区において、地域の景観向上に著しく寄与する民間の対象工事（赤瓦屋根、琉球石灰岩石積み・石張り、木材等）へ対象工事費の助成を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 景観地区の指定、景観重要公共施設の指定 継続的な人材育成の実施、地域景観協議会の設立 県道49号線（那覇市首里池端町）では琉球王国時代の文化財埋蔵が確認されており、掘削を伴う無電柱化推進事業の進捗に影響が生じる。県道50号線（那覇市首里真和志町）では、歩道が狭小なため無電柱化に必要な地上機器を設置するスペースの確保が困難な状況となっている。 インバウンドの来訪者が急増しており、説明版や標識の説明において多言語化の拡充が求められる。 文化庁補助の整備事業の数が全国的に年々増加しており、各史跡等への整備事業の交付額が減少傾向にある。 助成の対象となる地域が限定されている。 助成の前提となる景観形成基準等の規制に対する理解が得られない場合がある。 民間の建築工事等に対する助成のため長期間にわたる景観づくりとなる（短期での成果は出にくい） 大規模な工事に対する助成金額としては十分でない場合もある。

首里城復興基本方針に関連する取組（従来の取組）

基本方針	関連する取組	課題
<p>6 「新・首里杜構想」による歴史まちづくりの推進</p> <p>首里城を中核とする一帯（首里杜地区）は、世界遺産である首里城跡を保護する緩衝地帯（バッファゾーン）となっている。</p> <p>今回の首里城復興にあたり、古都首里のまちづくりの方向性を示した「首里杜構想」を社会環境の変化や時代のニーズを踏まえて見直すことにより、<u>首里杜地区が琉球文化を体現できる場となるよう、地域住民や関係機関と連携し、下記の取組を進める。</u></p>	<p>（2）首里城公園及び周辺地域の段階的整備</p> <p>首里城公園及び周辺地域については、地域に残された文化資源や、かつてのまちなみを段階的に整備し、点的・面的に奥行きのある公園やまちづくりが重要である。</p> <p>そのため、<u>県営公園区域にある中城御殿跡や円覚寺跡等の復元を計画的に進めていく。</u>また、御茶屋御殿跡など地域に点在する文化資源については、<u>国や那覇市と連携のうえ段階的な整備に向けた検討を進めるとともに、官民連携のもと地域を周遊及び文化を体感できる拠点やネットワーク（スージグワー等）の形成を図る。</u></p>	<p>【土木建築部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄らしい文化的な歴史資産、風土および自然と共生する憩いの場を創出するため、都市公園の整備を行う。（中城御殿・松崎馬場） <p>【国・土木建築部・教育庁・那覇市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 御茶屋御殿に関する課題の解決を図ることを目的に御茶屋御殿ワーキンググループ会議を設置。 <p>【教育庁】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国指定史跡である円覚寺跡の公開活用に向けて、発掘調査の成果や古写真等の資料を手がかりに、石牆及び三門の復元に取り組む。 <p>【那覇市（市民文化部）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 首里城周辺地域那覇市所管の文化財等整備事業の推進
	<p>（3）交通環境の整備</p> <p>多くの来訪者が訪れる首里地域において、公園に訪れるレンタカーや観光バス、タクシーに起因した交通渋滞が地域の課題となっている。</p> <p>こうした都市交通の課題に対し首里城と周辺地域の歴史まちづくりを推進するためにも、回遊性の高い快適な歩行空間を提供し、<u>地域住民と来訪者が共存できる観光交通や公共交通の利便性向上・充実に併せ、地区周辺の駐車場の確保に加え、ICTを活用した交通情報の提供など、ハード・ソフト面からまちの魅力を支える取組を展開する。</u></p>	<p>【土木建築部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本県における慢性的な交通渋滞の緩和に向けて、国や県の関係行政機関等で構成する沖縄地方渋滞対策推進協議会にて特定された主要渋滞箇所において、道路整備に伴う交差点改良とともに、短期的に実施可能な渋滞対策を行う。 ・ 商店街や学校施設等が沿道に立地し道路拡幅が厳しい生活道路において、歩行者が安全で快適に通行できる空間を確保するため、車輛を一方通行にし、歩道の拡幅を行う道路整備（コミュニティー道路整備）を行う。 <p>【那覇市（都市みらい部）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大中町内細部街路について地域状況の変化により都市計画変更の見直しを図る。

首里城復興基本方針に関連する取組（従来の取組）

基本方針	関連する取組	課題
<p>7 歴史の継承と資産としての活用</p> <p>戦火等により灰燼に帰しながらも、平和と繁栄の象徴として繰り返し復元されてきた <u>首里城の歴史、文化</u>はもとより、これから先、長い年月をかけて取り組んでいく首里城の復興過程を次世代に継承し、その価値を発信していくことは非常に重要である。</p> <p>そのため、首里城及びその周辺地域の観光資源を活用し、その価値を発信するとともに、子どもたちが観て、学ぶことができるよう下記の取組を進める。</p>	<p>(1) 多様で魅力ある観光資源の活用</p> <p>首里地域に点在する石畳道や屋敷石垣、御嶽や井泉をはじめ、地域ごとの特色ある生活文化は国内外から訪れる来訪者にとって魅力的な歴史・文化的遺産であり、地域に根ざした伝統産業を含めた潜在的な魅力を観光価値化し活用していく必要がある。</p> <p>そのため、国と連携して<u>首里の魅力</u>を体験できる周遊ルートの提案、<u>地域の歴史、文化、生活様式</u>を学び、体験できる観光商品の開発支援に取り組むとともに、<u>観光資源を保全するため地域の文化財の保護、地域行事の継承</u>などの支援に取り組む。</p>	<p>【文化観光スポーツ部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各地域の伝統行事・芸能等をテーマに文化講演（シンポジウム等）を開催する。 「琉球歴史文化の日（仮称）」に関する条例制定・周知活動等。 <p>【那覇市（経済観光部）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本市及び浦添市に所在する「古琉球及び近世琉球」の観光資源を活用し、広域的な周遊ルートを構築する。 那覇市観光協会が実施している「那覇まちまーい」の運営を支援する。 首里振興会が11月3日に実施している「琉球王朝祭り首里」を支援する。 首里城祭実行委員会が実施している「琉球王朝絵巻行列」を支援する。
	<p>(2) 平和を希求する「沖縄のこころ」の発信</p> <p>悲惨な沖縄戦の実相を正しく後世に伝え、平和を希求する「沖縄のこころ」を広く世界に発信していくことは沖縄県の重要な責務である。</p> <p>そのため、第32軍司令部壕などの首里城周辺の戦争遺跡を保存、継承するとともに、証言記録、調査資料等とAR等のICTを活用した平和学習ツールの開発・提供など、<u>その歴史的価値の継承及び平和発信に向けた環境整備</u>に取り組む。</p>	<p>【子ども生活福祉部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成初期からこれまでの間、壕の保全に努め、現地（第1坑口付近）に説明板を設置。壕が果たした役割などの歴史的価値を発信・継承する取組を実施。 <p>【那覇市（総務部）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平和の尊さを学び、平和に対する意識の高揚や次世代へ継承する人材育成を目的として、体験者講話や戦跡巡りなどの体験型学習等の事前学習を行い、長崎の青少年ピースフォーラムへ生徒を派遣している。 (事前学習にて、第32軍司令部壕を含む首里城周辺の戦跡を巡り平和学習を行っている。)

首里城復興基本方針に関連する取組（従来の取組）

	基本方針	関連する取組	課 題
<p>7 歴史の継承と資産としての活用</p> <p>戦火等により灰燼に帰しながらも、平和と繁栄の象徴として繰り返し復元されてきた <u>首里城の歴史、文化</u>はもとより、これから先、長い年月をかけて取り組んでいく首里城の復興過程を次世代に継承し、その価値を発信していくことは非常に重要である。</p> <p>そのため、首里城及びその周辺地域の観光資源を活用し、その価値を発信するとともに、子どもたちが観て、学ぶことができるよう下記の取組を進める。</p>	<p>(3) 次世代を担う子どもたちへの継承</p> <p>子どもたちが首里城の復興を通して、多くの人々の思いや努力が結実していく姿を実際に見て、感じるとともに、地域の歴史、文化を学ぶことは、「チムグクル」「イチャリバチョーデー」「ユイマール」といった沖縄らしい個性をもった人材育成につながるだけでなく、伝統文化の保存、継承、地域振興につながっていく重要な取組である。</p> <p>そのため、那覇市など関係機関と連携し、子どもたちに琉球の<u>歴史、文化を観て、学び、体験できる場を提供するとともに、その活動支援に取り組む。</u></p>	<p>【教育庁】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育の一環として、児童生徒対象に組踊等沖縄伝統芸能、沖縄芝居の鑑賞及び組踊ワークショップで体験する機会を提供することで、本県独自の無形文化財の理解を深める。 ・ 沖縄の歴史・文化への普及・啓発を行うため、国指定文化財158件、県指定文化財269件、市町村指定文化財963件を紹介する書籍、5冊を刊行し、県内の学校及び公立図書館を中心に配布する。 <p>【那覇市（学校教育部）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ しまくとぅばの読本等を通してしまくとぅばの普及・促進を図る。小学校運動会等でしまくとぅばラジオ体操の推奨を図る。 ・ 小学校3・4年生の社会科副読本「わたしたちの那覇市」を作成し市立全小学校へ配付。社会科の学習で活用している。教材には、市内の文化財や歴史なども含まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 組踊の唱えは琉球の古語であるため言葉の理解は難しい。また、沖縄芝居の台詞はすべて方言である。解説書を活用しての事前学習の協力と、実施校の生徒の実態に合わせた字幕の設置等鑑賞の工夫を行う。 —

首里城復興基本方針に関連する取組（従来の取組）

基本方針	関連する取組	課題
<p>8 琉球文化のルネサンス</p> <p>沖縄はアジア諸国との交易を通し、多様な文化芸術を受け入れ、独自の文化を築いてきた。</p> <p>首里城は琉球王国の政治・外交・宗教上のネットワーク拠点であり、首里城とその周辺は文化芸術の中心であった。</p> <p>首里城の焼失により改めてその<u>価値が再認識された琉球文化のルネサンスを興し、将来に向けてその価値を高め、万国津梁の精神を世界へ発信するため、下記の取組を進める。</u></p>	<p>(1) 多様性・独自性を持つ琉球文化の再認識</p> <p>島しょ県である本県は、地域ごとに特色ある生活文化を有し、温暖な気候、風土の中で外からの文化を受け入れ、自らの文化として体現してきた。</p> <p><u>首里城内の宮中文化に加え、多様性・独自性のある沖縄各地の地域文化の価値を再認識するとともに、これら魅力ある地域資源を普及・継承していく取組を行う。</u></p> <p>また、首里城やその周辺地域で育まれた琉球文化の魅力について、<u>学術的に研究する拠点づくり</u>について検討する。</p>	<p>【文化観光スポーツ部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各地域の伝統行事・芸能等をテーマに文化講演（シンポジウム等）を開催する。（再掲） 県民及び来県者に伝統芸能の鑑賞機会を提供するとともに若手実演家の育成を図るため、若手実演家等の公演及び国の重要無形文化財保持者の公演を実施する。 沖縄空手を保存・継承・発展させるため、国際セミナーの開催や指導者の海外派遣等を実施し国内外における沖縄空手の普及・啓発並びに世界の空手愛好家の来訪促進を図るとともに、指導者・後継者の育成を図る。 文化や歴史に培われてきた沖縄特有の食文化を保存・継承するとともに、伝統的な食文化を活用して沖縄文化の魅力を県内外に発信するための調査・検討を行い、食文化のあるべき姿、進むべき方向性を明確にする。 <p>【教育庁】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育の一環として、児童生徒対象に組踊等沖縄伝統芸能、沖縄芝居の鑑賞及び組踊ワークショップで体験する機会を提供することで、本県独自の無形文化財の理解を深める。（再掲） 沖縄の歴史・文化への普及・啓発を行うため、国指定文化財158件、県指定文化財269件、市町村指定文化財963件を紹介する書籍、5冊を刊行し、県内の学校及び公立図書館を中心に配布する。（再掲）
	<p>(2) 琉球文化の復興と新たな文化の創出</p> <p>2019年に300周年を迎えた「組踊」は首里城から生まれた琉球独自の芸能であり、幾多の世代わりを経ながらも脈々と受け継がれ、ユネスコの無形文化遺産にも登録されている。文化芸術は人々が心豊かに生き、活力ある社会を築き、世界と友好を深めていく基盤として欠かせないものである。</p> <p>また、沖縄が世界に誇る伝統文化である空手は、首里王府時代に士族の嗜みとして発達したとされ、首里城との歴史的な繋がりが深い。</p> <p><u>先人の「万国津梁」の精神を受け継ぎ、これからの時代にふさわしい新たな文化芸術を創造する場としての首里城をつくと共に、県民の感動体験の機会を創出する拠点としての首里城公園の活用を検討する。</u></p>	<p>【文化観光スポーツ部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 沖縄独自の文化の保全・継承や芸術文化創造活動等を持続可能なものとするため、グローバルな文化の受信・発信機能、プロフェッショナルな芸能の創造・継承機能、専門人材の育成機能を持つ文化発信交流拠点を整備する。

首里城復興基本方針に関連する取組（従来の取組）

基本方針	関連する取組	課題
<p>8 琉球文化のルネサンス</p> <p>沖縄はアジア諸国との交易を通し、多様な文化芸術を受け入れ、独自の文化を築いてきた。</p> <p>首里城は琉球王国の政治・外交・宗教上のネットワーク拠点であり、首里城とその周辺は文化芸術の中心であった。</p> <p>首里城の焼失により改めてその価値が再認識された琉球文化のルネサンスを興し、将来に向けてその価値を高め、万国津梁の精神を世界へ発信するため、下記の取組を進める。</p>	<p>(3) 国内外へ向けた琉球文化の発信</p> <p>令和元年度『琉球王国時代から連綿と続く沖縄の伝統的な「琉球料理」と「泡盛」、そして「芸能」』が日本遺産に認定された。このストーリーを国内外へ広く発信すると同時に、沖縄の多様な文化等に関し、琉球大学を中心とした国内外の大学等による学術面での評価・発信や世界のウチナーンチュネットワーク等を活用して展開する取組等について検討する。</p>	<p>【文化観光スポーツ部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 県民及び来県者に伝統芸能の鑑賞機会を提供するとともに若手実演家の育成を図るため、若手実演家等の公演及び国の重要無形文化財保持者の公演を実施する。（再掲） 文化資源を活用した新たな観光のメニューとなる魅力あるコンテンツ（舞台公演）を定時・定常的に実施し、観光客が観劇しやすい環境を整え、観光誘客を図る。また、観光客の沖縄の芸能に対する認知度や理解度を高めるための取組を行う。 沖縄独自の文化の保全・継承や芸術文化創造活動等を持続可能なものとするため、グローバルな文化の受信・発信機能、プロフェッショナルな芸能の創造・継承機能、専門人材の育成機能を持つ文化発信交流拠点を整備する。（再掲） 沖縄に深い理解と高い関心がある方々を「美ら島沖縄大使」として認証し、沖縄の自然、歴史、文化をはじめ、観光や特産品等の魅力を国内外に広くPRする活動を通して沖縄県のイメージアップを図る。 海外県系人子弟と沖縄県の青少年が互いに交流、研鑽する場を設けることにより、世界のウチナーネットワークを担う次世代を育成する。 「世界のウチナーンチュの日」（10月30日）を世界中で沖縄の風土や伝統文化等に想いを馳せる象徴的な日として定着させる様々な取組を実施する。
	<p>(4) 琉球文化を活用した産業振興</p> <p>本県独自の伝統的な食文化や伝統工芸、芸能等はその技術が高く評価されていることから、これらの伝統技術を現代のライフスタイルにおいて広く活用するための商品開発や販路開拓等を支援し、伝統技術を活用した産業振興を図る。</p>	<p>【商工労働部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 泡盛のブランド力を向上させ、域外出荷を図るため、泡盛の持つ、商品特性や歴史、文化的背景を活かして、商品開発、販売展開支援、プロモーションによる情報発信及び調査研究事業を総合的に実施する。 沖縄の工芸品を一堂に集め展示紹介するほか、即売や実演・体験、産地講演会を行い、工芸品を暮らしの中へ活用する提案を行い消費拡大につなげる。

首里城復興基本方針に関連する取組（従来の取組）

基本方針	関連する取組	課題
<p>8 琉球文化のルネサンス</p> <p>沖縄はアジア諸国との交易を通し、多様な文化芸術を受け入れ、独自の文化を築いてきた。</p> <p>首里城は琉球王国の政治・外交・宗教上のネットワーク拠点であり、首里城とその周辺は文化芸術の中心であった。</p> <p>首里城の焼失により改めてその価値が再認識された琉球文化のルネサンスを興し、将来に向けてその価値を高め、万国津梁の精神を世界へ発信するため、下記の取組を進める。</p>	<p>(4) 琉球文化を活用した産業振興</p> <p>本県独自の伝統的な食文化や伝統工芸、芸能等はその技術が高く評価されていることから、これらの<u>伝統技術を現代のライフスタイルにおいて広く活用するための商品開発や販路開拓等を支援し、伝統技術を活用した産業振興を図る。</u></p> <p>【商工労働部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 沖縄の優れた工芸品を公募し、表彰及び展示会を実施し、工芸品を広く一般に紹介することにより生産者の意欲の高揚、技術、デザイン開発力、競争力の向上を図る。 本県の伝統工芸品の競争力と価値を高めるため、沖縄工芸ブランド戦略を策定し、更なる工芸産業の振興を図る。 新たな製品づくりを目指す工芸事業者を公募・採択し、流通やマーケティング、試作品開発、販路開拓等の支援を通して、工芸分野における現代の消費者ニーズに対応した新たな製品モデルの創出に繋げる。 <p>【文化観光スポーツ部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化資源を活用したコンテンツ及びビジネスの創造を図るため、県内事業者による文化資源を活用した新たな事業展開を支援する。 沖縄独自の文化の保全・継承や芸術文化創造活動等を持続可能なものとするため、グローバルな文化の受信・発信機能、プロフェッショナルな芸能の創造・継承機能、専門人材の育成機能を持つ文化発信交流拠点を整備する。（再掲） <p>【那覇市（経済観光部）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本市も参加する沖縄工芸ふれあい広場実行委員会主催の催事において、県内各産地の伝統工芸品を一同に展示、紹介することにより販路拡大と需要の開拓を行い、工芸産業の振興を図る。 本市の伝統工芸産業の振興及び発展と市民文化の向上を目的に、伝統工芸品の展示及び販売、実演及び体験、後継者育成等を行う施設「那覇市伝統工芸館」を運営している。（再掲） 	<ul style="list-style-type: none"> 工芸従事者に関する情報を幅広く収集し、イベントの周知の取組む。 沖縄県の国指定伝統的工芸品は16品目と多い（全国3位）ものの、沖縄県と伝統工芸産業のイメージがリンクされていない。 — 首里城復興を契機とした文化や歴史の再認識及び普及。継承に関する取組の実施。 観客を引き込む仕組みづくり。 文化振興会との連携・協力。 首里城復興を契機とした文化や歴史の再認識及び普及。継承に関する取組の実施。 当該事業における発信拠点と首里城ルネサンスにおける発信拠点の役割の整理。 観客を引き込む仕組みづくり。 文化振興会や国立劇場おきなわとの連携・協力。

首里城復興基本方針に関連する取組（従来の取組）

基本方針	関連する取組	課 題
<p>9 基本計画の策定・推進</p> <p>基本的な考え方、基本方針に基づき、長期的展望に立って首里城復興を効率的・計画的に進めていくためには具体的な施策や行程表を盛り込んだ基本計画を定め、各種施策を着実に進めていくことが重要である。そのため、計画策定にあたっては、県民の意見はもとより、国、那覇市などの関係機関、各分野の専門家の意見を十分に踏まえるとともに、県内の高等教育機関や研究機関と連携を図り、首里城復興に向け、県民のみならず国内外の多くの方々から参画できるように下記の取組を進める。</p>	<p>(1) 県民の意見を踏まえた基本計画の策定</p> <p>本基本方針に沿って、首里城復興に向けた基本計画を令和2年度末までに策定し、各種財源の確保についてもあわせて検討する。</p> <p>なお、計画策定にあたっては、基本計画策定に係る委員会等を設置し、国、那覇市など関係機関や、専門家や経済、観光、文化などの各種団体等の意見を踏まえるなど連携を行う。また、シンポジウム、ワークショップなどを通じて県民をはじめ、国内外の復興を願う人々の意見も幅広く取り入れていく。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>火災を受けての項目のため、対象外</p> </div>
<p>基本的な考え方、基本方針に基づき、長期的展望に立って首里城復興を効率的・計画的に進めていくためには具体的な施策や行程表を盛り込んだ基本計画を定め、各種施策を着実に進めていくことが重要である。そのため、計画策定にあたっては、県民の意見はもとより、国、那覇市などの関係機関、各分野の専門家の意見を十分に踏まえるとともに、県内の高等教育機関や研究機関と連携を図り、首里城復興に向け、県民のみならず国内外の多くの方々から参画できるように下記の取組を進める。</p>	<p>(2) 国内外の学術ネットワークとの連携</p> <p>社会的ニーズが多様化する中、大学や研究機関においては、学術研究や人材育成など本来の役割だけでなく、各機関が有する「知の資源」を有効に活用した地域貢献が求められている。そのため、琉球大学をはじめとする県内高等教育機関や研究機関が有する知見や国内外とのネットワークを活用し、首里城復興に向けた取組を協議する場を設ける。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>火災を受けての項目のため、対象外</p> </div>
<p>基本的な考え方、基本方針に基づき、長期的展望に立って首里城復興を効率的・計画的に進めていくためには具体的な施策や行程表を盛り込んだ基本計画を定め、各種施策を着実に進めていくことが重要である。そのため、計画策定にあたっては、県民の意見はもとより、国、那覇市などの関係機関、各分野の専門家の意見を十分に踏まえるとともに、県内の高等教育機関や研究機関と連携を図り、首里城復興に向け、県民のみならず国内外の多くの方々から参画できるように下記の取組を進める。</p>	<p>(3) 県民等の継続的な参加による復興</p> <p>首里城の復興は県民をはじめ国内外の多くの方々の継続的な参画により進めていくことが重要であり、長い年月を要することが見込まれる。</p> <p>既に国内外において民間主体による様々な活動が進められていることから、その活動が連携し合い、広く情報発信をすることにより多くの方々から復興に参画できる仕組み作りに取り組む。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>火災を受けての項目のため、対象外</p> </div>